

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 杉田和俊

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

記憶するより、理解できる講義や資料を提供することに努めている。そのためには、事実に基づいた内容を自分の言葉で講義する必要があると考える。特に公衆衛生の環境衛生分野や機器分析化学では専門用語なども多く、不慣れな学生が多いため、原理などを簡単・明瞭にした資料を提供することを心がけている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医公衆衛生学(環境衛生)	獣医学科	必須	4年	140
獣医公衆衛生学実習Ⅱ	獣医学科	必須	4年	140
公衆衛生学	動物応用科学科	選択	4年	60名
機器分析化学	動物応用科学科	選択	3年	60名
毒性学-機器分析実習	動物応用科学科	選択	3年	60名
環境計量学・同演習	環境科学科	選択	4年	5名
専門学外実習	獣医学科	必須	5年	140名

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医学科の学生には国家試験対策としての知識を蓄積・整理すること、及び有機的な事象の繋がりを考えさせることを目的としている。特に実習では、実際に検査や測定を行うことで、原理などを理解し、印象付けることで国家試験対策にも繋がりたい。動物応用科学科及び環境学科の学生に対して就職支援のために技術の原理を習得してもらうことを主な目的としている。特に動物応用科学科で講義・実習している機器分析では、実際の食品や環境の評価方法やその原理について習得し、分析(機器分析)を評価ツールとして利用できることや実際に評価することで、就職支援に繋がりたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

講義で念頭においていることは、理解しやすい講義・資料を提供することである。なるべく身近な事例をあげ、「覚える」というよりは「わかる」といった内容を心掛けている。そのため、小テストを取り入れ、重要ポイントを明確にし復習としている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

特になし

(2) ICTの教育活用

有

Moodleや學理を用いた小テスト

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

（毒性学）機器分析実習では機器の種類・数に比べ受講生が多くいることから、機器の種類ごとに班を割り振り実習を実施している。一度に2班ずつ異なる実習を行う。

(2) 学生の理解度の把握

B

レポート、まとめのテストなど

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

事前の資料配布

(4) 学生とのコミュニケーション

B

質問については随時対応

(5) 双方向授業への工夫

B

小テスト、レポートのフィードバックなど

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

試験問題を意識させるよう、過去に試験に出た内容については学生に紹介

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

多数意見や合理的な意見については取り入れる方向で修正する

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

講義資料について出所を明確にする

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

教科書以外の出典については出典を明確にする

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

小テストとレポートの評価

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

提出後の講義で特筆すべき内容は公表する（主に良かった点）

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

なるべく参加するようにしている

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

わかりやすい授業・印象に残る実習を心がける
理解度をこまめに把握する
必要に応じて、繰り返し小テストなどで印象付ける

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

・ 授業資料、小テスト